（個別研修）菊井 妙子

研修テーマ：障害者の高齢化や重度化に伴う包括的アプローチの方法と
その中で看護師の果たす役割について

研修先：Children's Hospital of Wisconsin　（USA）

研修日：5 月 1 日～5 月 5 日

目　的：①緩和ケアについて学ぶ（子供と大人の緩和ケアの違いについて）
②看護師の役割について Dr. チャールズ B ロスチャイルド氏（ホスピス緩和医療、内科学、小児集中治療医学、小児科医）に学ぶ

内　容

・小児緩和ケアチームは６人のチームで成り立っており、Dr が４人、専属看護師 APNP1 人、牧師１人（日本との大きな違い）というチーム編成であった。
牧師は宗教上により必要となる場合もあるが、（祈りを行うことで救われるなど）家族の感情を支えることを大事にしてサポートを行っているとのことであった。

・緩和ケアの考え方
安心・痛みを和らげるという身体的に楽な状態をつくるという基本は日本と変わらないと感じた。
ゴールの設定が家族によって違うが多くは「病院から住んでいた家へ帰る」家族や親戚、友達のいる家へ帰るという場合が多かった。{日本では子供の場合、自宅へ帰るという事が（少しずつではあるが増えてはきているが）難しい現状にある}
その中で家族がどのような道を選べばよいか、この子供のために何が最善なケアであるかできるだけ早くからサポートすることで、家族もサポートされていると感じることができるとのことであった。
家族への声掛けや、家族の感情や思いを引き出すためのアプローチの実際について、一緒に行動し、学ばせていただいた。

子供病院の外観（病院内部は撮影不可）

入口から建物までの広い病院の敷地